

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 3月 21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105131
法人名	社会福祉法人寿康会
事業所名	寿康園グループホーム宮之浦
所在地	〒891-1305 鹿児島市宮之浦町892番地 (電話) 099-294-1017
自己評価作成日	令和5年2月17日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 5年 3月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿児島市郊外の静かな住宅地に平成18年に設立されたホームである。立地的にも恵まれ静かな環境で医療機関、消防署、Aコープ、タイヨーなどが近くにあり平坦地で入居者を散歩等に連れ出しやすい環境となっている。関連施設として特養やケアハウス、小規模特養などがあり、連携しながら安心した暮らしの提供に努めている。設立当初から地域福祉を大切にして近隣住民や他事業所との交流が盛んに行われて良好な関係性が保たれている。防災対策においても地域住民と共同で訓練等を実施できている。(現在コロナのため訓練案内のみにて対応している)ケアへの取り組みとしては自立支援という言葉を大事に個人個人が安心して生活が送れるように配慮している。また、サービスの質の向上のために法人及びホーム独自の研修会を行っており研修体制も充実している。訪問看護と連携し日々の体調管理に努め、人生の終末期をその人らしく穏やかに過ごしてもらえよう、看取りケアも行っております。家庭的な雰囲気を大事にしており、明るく和やかな雰囲気を感じ取っていただけるように日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所吉田支所から10km程離れた自然豊かな宮之浦地区の一角に、平成18年に設置されており周辺には一般の住宅や市消防署吉田分遣隊、県教育センター、スーパーマーケット、民家型ディサービス事業所等があり利便性は良い。少し離れて同法人の特別養護老人ホームやケアハウス、ディサービスセンター、訪問看護の事業所があり、これらの事業所とは法人本部を中心に情報を共有し研修の実施や災害時の協力体制を築いている。

開設以来、地域との交流を大切に、校区のイベントへの参加や散歩時の会話、友人知人の来訪、ボランティアの受け入れ、防災訓練の合同実施、住民からの寄せられる認知症ケアの相談への対応、農産物を頂くなど良好な関係を築いている。コロナ禍により地域のイベントの多くが中止され、ホームの行事も外部の参加は控えてもらい利用者職員とで実施し外出や買い物、外食等も控えているが、コロナの収束状況を把握しながら徐々に再開したい意向である。

管理者及び職員はホームの基本理念に沿って、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら、その人らしい生きがいのある暮らしの支援に努めており、日々の活動も無理強いのことのない個別性を尊重したケアに取り組んでいる。日頃から利用者や家族からの要望等の把握に努め、内容を職員全体で協議して運営やサービスの改善を図っておりアンケートの結果からも家族からの信頼度の高さが窺える。

管理者および職員は信頼と協力のある良好な人間関係を築いており、日頃の業務の中やスタッフ会議、個別面談等で意見や要望等を出し合い、全員で協議して改善に取り組んでいる。管理者は研修の実施やケアへの助言を日常的に行い、休憩時間の確保、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的な事情も十分配慮するなど働きやすい環境作りに努めており、職員の定着率は良い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	家族やスタッフが目が届く所に運営理念を掲示。またホーム独自の目標設定を上半期・下半期の2回おこない、職員会議の資料に掲載を行い確認・振り返りをしている。	開設時に作成した基本理念はホールや玄関、事務所に掲示して周知を図り、日々の申し送りや毎月の職員会議等で意義の確認やケアの振り返り、意見交換等を行い、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑の野菜をおすそ分け、地域行事への参加など日常的に交流できている。運営推進会議については、コロナ禍にて文書での聞き取りを行っている状況です。防災訓練も共同で実施し取り組んでいる	地域の情報の把握に努め、円滑に交流する関係を築いている。感染予防に配慮しながら家族との面会や日頃の散歩時の挨拶、地域の人から日常的に農産物等が届けられ、また周辺の清掃を自主的に取り組んでいる。地域住民から寄せられる認知症ケアや高齢者福祉に関する相談にも丁寧に対応しているが、現在はコロナ禍に配慮して外食や買い物、ボランティアの受け入れ等は控えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人で地域支援に取り組んでおり、近隣の関係事業所ともネットワーク作りをしている。地域行事への参加や高齢者サロン等へ出向き認知症への理解を深める活動もしている。（現在、コロナ禍にてサロン等への参加は自粛している）	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で、実地指導・情報公表・自己評価、外部評価結果の報告を行い改善対応策についても検討、報告している。コロナ禍にて文書での聞き取りを行っている状況です。また会議を通じて地域との関わり方などの意見を取り入れ積極的に取り組んでいる。	会議は、民生委員、3地区の公民館長、地域包括支援センター等の参加で隔月毎に開催しているが、コロナ禍により書面での会議が続いている。ホームの現況や行事等、議題を開催前後に委員に通知して意見等をもたらすように取り組んでおり、寄せられた意見は申し送りや職員会議で検討して運営やケアの向上に繋げている。今後、利用者や家族の参加の促進とコロナの収束状況を見ながら対面での会議開催を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>鹿児島市の各課（高齢者福祉、実地指導、介護保険等）や国保連の担当者に相談・連携している。電話やFAXでの問い合わせにも対応。包括支援センターとも連携し入退居に対応。</p>	<p>市吉田支所の窓口に向いたり電話、FAX等で介護保険や各種制度、コロナ禍に関する質問や協議、生活保護受給中の利用者の処遇に関する連携等を行い助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。市包括支援センターとも利用者の入退所に関する連携に努め、ズームによる市主催の会合や研修にも積極的に参加して運営やサービスの向上に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止改善計画書を作成し、年2回の自主研修を年間計画で組んで実施。年2回運営推進会議でも研修を実施。その際には状況把握をして原因追求している。対応方法も学んでいる。一人で外出される場合はさりげなく一緒に出かける。また職員は携帯を所持して付添い安全面にも配慮して対応している。</p>	<p>身体拘束の無いケアについては運営規定や利用契約書等に明記されており、計画的な研修の実施や日頃の業務の中や職員会議等で振り返りや意見交換を行って認識を共有している。指針を整備し適正化を目的とした委員会を年4回開催して言葉による拘束にも配慮して安全で自由な生活の支援に努めている。不適切な言動には、その都度、助言し合うなど日常的に改善を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法の中身についてどの様な行為が虐待にあたるのか(身体的、精神的、経済的性的、放棄、放任など)、発生時の対応方法などの勉強会を実施。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者、家族で必要なケースはパンフレットを渡したり、相談支援を随時している。地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の自主研修を年間計画に組んで実施。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後のトラブルを避ける為にも入居前の説明を時間をかけて行っている。事前連絡をしてもらい相談に対応しやすいように配慮して時間を設け対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価アンケートも取り組みの一つ。アンケート箱も設置済み。家族会実施の際には家族要望を聞き鋭意改善した。(コロナ禍のため現在家族会は中止している)また、相談苦情体制を整えており、窓口として全職員が受付けている。貴重なご意見と捉え、鋭意改善に努めている。	利用者や家族には日頃から要望等を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日頃の会話や仕草等で汲み取り、家族からは面会や電話、手紙等で、利用者の状況を伝えながら意見を貰うように取り組んでおり、内容を職員会議で協議して改善を図っている。年2回開催してきた家族会はコロナ禍に配慮して現在は中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、職員会議内で話し合ったり、その都度管理者が対応し全職員の意見を引き出す為にアンケート活用して集約し改善している。また、人事考課の面接などで個々の希望などを聞き取りしている。	管理者及び職員は気軽に意見や要望が言い合える信頼関係を築いており、業務の中や職員会議時に要望や意見を出し合い、また、定期の人事考課時や必要に応じて個人面談の実施でも把握し、内容によっては法人本部とも協議しながら改善を図っている。ケアへの助言や研修に取り組み、勤務シフトには有給休暇の取得や休憩時間の確保、個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めており、職員の定着率は良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回管理者中心にスタッフへの人事考課面接を行いその中で各自の目標設定や到達度合いなど話し合い、メンタルケアにも力を入れている。また、代表者も職場環境整備に努めている。賃金への反映や表彰もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て実施。研修機会をパートも含めて確保されている。新人職員はマニュアルもあり採用当初の対応も充実。他にも自主研修の資料も本部より回ってきて参加できる体制も整っている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>老祉協の研修があった際は、率先して参加している。現在コロナ禍にてZOOMでのリモート研修ではあるがサービスの質を向上させていくための取り組みに生かしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に頂く入居申込み書や、関係事業所からの情報提供を基にアセスメントを行い、スタッフへ報告。入居2週間ぐらいは特に身体状況変化などにも注意している。またケアプランに意向を反映させて対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意向と現実の間に立たされ悩んでいる家族が多く家族も要介護者として接している。入居前なども十分相談にのれるように事前連絡をお願いし、日程調整を行い都合に合わせて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当園で可能か不可能かをしっかり見極め、具体的な方法を本人・家族と話し合っている。(リスクも含む)安易には受け入れずユニット内のことも検討して対応している。(例：アルコール飲酒、紙おむつ申請など)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当園で可能か不可能かをしっかり見極め、具体的な方法を本人・家族と話し合っている。(リスクも含む)安易には受け入れずユニット内のことも検討して対応している。(例：アルコール飲酒、紙おむつ申請など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居の段階で一緒に支えて行く事をお願いしている。面会時には記録を閲覧や状況報告を行っている。記録の方法も本人の言葉などの記載する工夫をしている。病院受診なども積極的に協力して下さる家族もいる。(コロナ禍のため接触による蔓延を防ぐため職員が主に対応している)</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>来園者には本人との関係をお聞きした上で、再び来園して下さる様はこちらから声かけしている。本人が望んだときは自宅やなじみのお店への外出などに極力いける様に職員体制も整えている。(コロナ禍にて控えている)</p>	<p>利用者毎の生活歴や馴染みの状況を共有し、家族の意向も確認しながら支援に努めている。感染予防に配慮しながら家族や友人との面会(窓越しで20分間程度)や訪問理・美容の実施、散歩時の地域の人との挨拶、他科受診時には車窓から馴染みの町並みや風景等を楽しんでいる。家族との電話や手紙、LINEでの写真の送付等を取り次ぎ、利用者毎の現状を詳しく伝えるなど関係の継続に取り組んでいる。コロナ禍に配慮して買い物や一時帰宅、外食等は控えている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性や特徴などを十分に考慮してそれぞれに対応している。職員の座る位置の配慮などもその一つである。一人ひとりとの関係性もだが、個人と集団の関係性も大事にしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居したからそれで終わりというわけではなく、他の施設に移った方はその後の状況把握をしたり、同一法人の事業所に移った方には頻りに会いに行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、関係者からどの様に暮らして行きたいかをアセスメントしてケアプランに活かす様にしている。日々の時間の中で意向を汲み取り職員会議などで共有している。	日頃の会話や見守りの中で利用者の思いを汲み取り、その人らしい平穏な暮らしとなるように家族とも連携して支援している。利用者の意向による趣味（音楽やテレビの視聴、新聞の購読、ぬり絵、シール貼他）や家事（洗濯物たたみ、調理の手伝い等）の取り組みについては、心身の状況や残存能力に配慮しながら個別の支援に努め、これらの成果には評価や感謝の言葉を添えて達成感が得られるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネからの情報提供やアセスメント時に本人・家族に聞き取り情報収集している。ただし先入観を持ちすぎることのないように職員へ説明する。支援経過に記録し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は個々に対応している。バイタルチェック表を工夫している。アセスメントの段階でもケアマネだけでなく全職員で話し合いながらアセスメントを取る様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン内容については少なくとも半年1回変更。身体状況変化などあった方は状況に応じたプラン作成を行い個々にあわせたプラン作成を行う。柔軟な対応できるプラン作りを心掛けている。	本人・家族の思いを把握し、主治医の指示やモニタリング（3か月毎）及び職員会議時の意見を基に、利用者の特性等を大切に楽しみ事にも着目した介護計画を作成している。ケアの実施状況は申し送りや日勤・夜勤日誌、チェック表等で共有し、状況変化時には実態に沿って計画を修正して改善に取り組んでおり、計画の内容は家族の理解も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過は出勤職員が1人に対して2名の記入が残るように工夫しており、問題の裏側にある物を探る為に入居者の言葉をそのまま記入している。情報共有の為に記録を活用。その中からヒントを探し出し介護計画に反映する努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて支援をしている。（訪問理容・訪問歯科もおこなっている。）また多機能化としては地域サロンへの講師派遣や防災教室を行うなど取り組んでいる。（現在コロナ禍にて控えている）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防へは救急ボランティア登録している。他にも民生委員の方の協力や学校関係者に協力いただき行事に参加したり、当園はボランティアの受け入れをしたりお互いに協力し合っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医が良い方はその担当医とし、私どもの協力医療機関を望まれた場合も対応可能。専門科が適当と見込まれる場合は家族へ情報提供し病院受診協力をお願いしている。	利用者毎に病歴等を把握し本人・家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。他科の受診は原則家族の同行となっているがコロナ禍に配慮して現在はホームで対応しており、週1回の訪問診療と医療連携による訪問看護を実施している。日常的に衛生や健康管理を徹底し協力医療機関との連携も適切に実施されており、利用者及び家族の安心に繋がっている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	27年度より医療連携加算をとっている。週1の医療連携をおこない、体調管理を行っている。看取りについても、訪看と連携して行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には情報提供書を作成し医療機関担当者と連携している。認知症があるからと病院側から早く退院を勧められた方も連携して対応している。こちらとしても早めの復帰を望んでいるが対応可能かを見極めて関係者との連携をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応をH27年度より行っている。随時、話し合いを持ち看取りの方をご家族と共に看取る事が出来るよう支援している	重度化及び看取り対応の指針を整備しており利用開始時や病状変化時に本人及び家族に説明して理解を得て「看取りの同意書」「延命に関する宣言書」を貰っている。重度化した時点で主治医や家族と今後の対応についての話し合いを行い、可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、これまでも看取りを実施（7～8件）してきているが、末期に医療機関への入院や特別養護老人ホームへの入所を希望する利用者も見られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止マニュアルの勉強。連絡方法等を電話口に掲示。ヒヤリ・ハット、事故報告書の話し合いを実施。応急手当・処置方法に勉強会開催や消防署指導のAED・心配蘇生法訓練実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防火管理者を中心として近隣住民と合同での避難消火訓練実施。（コロナ禍により近隣住民は不参加）普段から協力がもらえるように働きかている。また分団の集まりに参加したり、消防署主催の防災ネットワーク作り会議にも参加している</p>	<p>消防署の協力を得て年2回夜間発生も想定した防災訓練を実施し、避難や通報、消火器等の取扱いの研修も行っている。従来、地域住民と合同で訓練を実施してきたがコロナ禍により最近参加を控えてもっている。住民との災害時の協力関係は築いている。日頃から災害パターンに対応した通報や避難経路の確認や災害事例を基に意見交換するなど、認識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置、消火器等が設置され災害時の食料・飲料水、介護用品等を備蓄し、更にコロナ感染時の対応分も3日分備えている。法人本部を中心にBCPを作成中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	玄関に個人情報保護方針掲示。記録等は外部の目に触れないように鍵のある棚に保管。自主研修として年間計画に組み込んで実施。声かけは会議や人事考課の度に話をし取り組んでいる。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報、守秘義務については運営規定等に明記し計画的な研修の実施や日常のケアの中で認識を共有し、常に利用者の気持ちに配慮したケアを心掛けている。利用者毎の人格や特性、自己決定を大切に、楽しみ事や好きな家事の取り組みも個別に支援している。入室時は声掛けやノックを励行し、排泄や衣服の着脱等は羞恥心にも配慮したケアに努めており、広報誌等への掲載についても意向を確認して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか思う様に伝える事が出来ないのでスタッフの気付きを大切にしている。言葉だけでなく表情や態度、しぐさなどの非言語的な部分も読み取る力を大事にして取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とお茶の時間は決められているが、一人ひとりのペースや体調・希望を大事に買物や散歩などその日の入居者の要望や希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自宅よりお化粧品やお気に入りの衣類やアクセサリを持ってこられている方もおられる。訪問散髪を利用し月に1回整容の機会を設けている。家族と外出時に馴染みの店で散髪されてくる方もいる。(コロナ禍にて控えている)		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒になって献立を考えたり、買物、下ごしらえ、準備、下膳の協力を能力に応じて関わってもらっている。主菜は決めているが副菜は柔軟に対応。円形テーブルで全員一緒に食事(コロナ禍にて向き合っ食べることが難しいため円形テーブルの使用は控えている)	好みや疾病に伴う食事制限、形態、栄養バランス、旬の食材、代替品等に配慮し利用者の状況に応じたケアに努め、食材の下ごしらえや片付け等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。季節の行事食(おせち、恵方巻、おはぎ等)や誕生日の希望食、ケーキ、手作りのおやつ、敬老の日の仕出し弁当、ベランダでのお茶など食事が楽しみなものとなるよう工夫しているが、コロナ禍により外食や弁当持参のドライブ等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事に関しては摂取量を記入しており食事摂取量が少ない方は高濃度液状栄養食を提供している。また法人の管理栄養士に助言をいただく事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に義歯洗浄剤を使用して取り組んでいる。協力歯科医院の支援をいただき口腔清拭に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。自力排尿を大切にしており、出来ない方に対してはポータブルトイレなども活用している。安易にリハビリパンツすることでの弊害も理解して取り組んでいる。	利用者毎の排泄リズムを把握し心身の状況に配慮したケアをプランに反映させて取り組んでおり、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。個々の状況に応じて夜間はポータブルトイレ（現在2人）やオムツを使用するなど工夫しており、介護用品の消費が減少するなどの改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便が出来る様に食物繊維の多いものを食べていただいたり、牛乳を提供したり、ヨーグルトやヤクルトなどを提供するようにしている。必要時には医療機関との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	現在は入居者からの要望である程度と曜日、順番、時間設定をした。希望で清拭も実施。異性介助を嫌がる方には同性介助をしている。入浴剤を入れるなどの工夫もしている。	利用者の心身の状況に配慮しながら週2回午前の入浴を基本に、清拭、シャワー浴も行って清潔保持に努めている。温度や時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴で気持ち良く楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで時間の変更や声かけ等を工夫して意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は大体決めているが眠くなったら居室へ移動する対応。昼夜のリズムを大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導で、薬の管理や服薬指導、相談等を受けることができる。家族や先生とも連携して、本人に適した薬が処方されるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみごとを大事に対応しており、個別と集団のバランスにも注意して対応している。一人ひとりが生活暦や特技などを発揮できるような場面もつくり対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑や田んぼの見回り、自宅の様子見、散歩、ドライブ。個別に外出しての夕食などしている。なるべく希望に沿って対応できるように努めている。(コロナ禍にて控えている)	コロナ禍により外出計画も十分には実施出来ない状況であるが、利用者の状態に応じたケアで園庭や周辺での日光浴や散歩を日常的に実施し、コロナ禍に配慮しながら公園のコスモスの見物や通院時には車窓から街並みや風景を楽しんでいるが買い物や一時帰宅、墓参等は控えている。リフレッシュを図るため室内での軽い体操やゲーム、テレビや音楽の視聴、季節に応じた作品作りなどを工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者が望んだ品物の買物は一緒に買物にいき本人に支払ってもらったりしている。(※コロナ禍にて中止している)お金を持たないと不安な方は事前に家族と話し、紛失時の責任の所在を明らかにして対応している</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をしたいと話があった時に連絡を入れることができる。ただし、本人の能力上問題があり家族からある程度制限してほしいとの要望のある方へも対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感のある花々や飾り物がある。車椅子が自由に移動できるスペース確保。ソファなどで居心地良く過ごせる様になっている。トイレについても入居者使用後はこまめに職員が確認するようにしている。日当たりもよく明るい環境。</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすホールは、明るく余裕のあるスペースが確保され開放感に満ちており、利用者の活花や正月の絵馬、季節感のある貼り絵等の作品が飾られ、また、台所の調理の音や匂いが伝わるなど、家庭的な雰囲気である。テーブルセットやソファ、テレビ等が利用者の動線に配慮して置かれ、清掃や空調、衛生管理を徹底して快適に過ごせる環境になっており、利用者は四季を感じながら平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>家具の配置をみんなでくつろげる所と一人くつろげる所をつくっている。一人になれるところとみんなと一緒にになれるところと配置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は畳敷きとフローリングである。居心地良く過ごせるように個人で対応（位牌をもちこんだり、使用していたタンスなど）。家族と相談して落ち着いて過ごせる様に配慮してある。</p>	<p>フローリングと畳の2種類の居室は共に余裕ある広さが確保され、エアコン、クローゼットが備えられている。利用者は長年愛用していた寝具やテレビ、家族写真、遺影等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いや母の日のプレゼント等も飾って落ち着いて憩える雰囲気の居室となっている。入口の氏名表示については利用者の状況や意向に沿って対応しており無表示の居室もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室名については必要に応じて対応しており、名前を書かなくても分かる方には何も書かれていない。引き戸が大半なので出入りに扉を押ししたり引いたりの間違いが少ない。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない